

令和2年12月18日（金）

「 第24回定点観測をおこないました 」

12月5日（土）、第24回の定点観測をおこないました。これは、2013年から年3回、同じ時期に同じ場所から大槌の復興の移り変わりを撮影するという復興研究会の活動です。



午前中に、水門見学会が開催されました。生徒16名が参加し、水門についての説明をいただき、建屋や水門に上がりました。「大槌は鮭が遡上するため、環境に配慮しその季節には水中での工事をおこなわない」「水門の基礎となる柱を建設することが一番大変だった」など、見学会に実際に行ったからこそ学べたことが多く、充実した見学会となりました。



午後に、町方地区、吉里吉里地区、赤浜地区、安渡地区の計8班に分かれ定点観測をおこないました。3年生にとっては今回の最後の定点観測。後輩に教える姿、自らが手本となり動く姿が多くみられました。「工事が進んでいた」「建設中の建物があった」「電信柱が増えた」など、復興を実感しました。

